

2020年7月18日

「現代経済理論」の定期試験における事故についてのお詫びと対応について

7月17日に実施した「現代経済理論」（渡辺教員）の定期試験において、問題解答用フォームへのリンク不具合解消作業中に、1つのZOOM試験室で誤ったフォームへのリンクを受験者に連絡し、その結果一部の受験者に正答が提示されてしまうというトラブルがありました。教養学部では、本件は定期試験の基本である公正さを毀損する瑕疵であると認識しております。

まず、このような事故を引き起こしたことを、心よりお詫び申し上げます。どのような活動でも事故は起きる可能性があります、その確率を下げる、また起きたときの対処法を用意しておくことが重要であると認識しています。

大学の定期試験でこれだけの規模でオンライン試験を実施するのは大きなチャレンジでありますので、学部長室では多大な時間を割いてあらゆるリスクを検討し、相当な資源を投入して試験実施体制を構築してきました。試験監督は担当教員と学部長補佐を含め、システムに習熟した教員が通常の試験以上の数で担当しています。しかし、それでも事故は起こりましたし、今後も事故が起きることは否定できません。

これについての対処法としては、幾つかの対策を考えておりました。この科目では、問題が発生した場合の再試験の日程を確保してあります。

そこで今回、試験の公平性を担保するために、当該試験室の受験者全員に対し、再度8月3日の3限（本試験と別の時限です）に別の問題で試験を実施することにいたしました（なお、もともと本科目の試験では、各試験室で異なる問題を用いており、問題の違いによる成績の差が生じないような対策が施されております。詳細は担当教員よりメールで通知があります）。該当受験者にはご迷惑をお掛けすることとなり、深くお詫びいたします。試験の公平性を保つために、再試験の実施を行うことをご理解頂きたいと思っております。

再試験の形式については、感染状況が悪化し、遠方の学生が東京に来られる状況でないこともあり、今回同様オンラインにより実施しますが、さらに万全の態勢を整え、ファイルの通知方法も改良します。

なお、今回の事故の原因を早速タスクフォースで分析し、試験解答用フォームの通知の仕方を改善することにいたしました。具体的には、フォームの通知時のダブルチェック、誤ったリンクを送信しないための事故防止機構の導入、担当監督者への注意事項の周知などを含む対策を、来週早々に早速導入します。

また、その他の不具合に対する対策も含め試験マニュアルを随時改訂し、担当教員と試験監督への周知をこれまで以上に緊密に行うなど、絶えず改善に努めて参ります。改訂版のマニュアルは週明けの試験から使用できるように発出します。連絡体制についても改良を加えます。

繰り返しとなりますが、今回は定期試験において重大な事故を発生させてしまいましたことに対し、深くお詫び申し上げます。今後とも安心して定期試験を受験できるよう、再発防止のために努力する所存ですので、ご理解のほどお願い申し上げます。

東京大学教養学部長
太田邦史